

令和3年度
12月号

幼稚園だより



令和3年11月30日
文京区立湯島幼稚園

たくさんの学び

園長 前田 宏子

紅葉していた葉が落ち、寒さが増してきました。子どもたちは元気に園庭を駆け回ったり、ドッジボールをしたりしています。

先日はホールで“ゆりQハイランド”（遊園地ごっこ）を行いました。例年は遊園地に遠足に行った後に、年長ゆり組が遊園地ごっこを行っていました。しかし、今年度も遊園地の遠足は見合わせる事となり、代わりにホールで遊園地の動画をゆり組全員で見ることになりました。みんなで同じ動画を見ると、楽しさが伝わり合います。「昨年のゆり組さんは遊園地を作っていた！」ということ覚えていて、今年は自分たちが作ろう！ということにつながっていきました。

グループごとに設計図を描き、段ボールを使ったり、ラシャ紙という全紙の画用紙に絵を描いたりしながら、自分たちがイメージしたものを作り上げていきます。一日で完成するわけではないので、毎日やったことを振り返り、翌日にやることも考えながら進めていきました。実際にやってみるとうまくいかなかったこともあり、その都度「どうする？」と考えて修正していきます。試行錯誤しながら進めていく活動だからこそ、完成した時の満足感は大きくなりました。

しかし、遊園地ごっこは乗り物を作っておしまいでありません。お客さん呼び、乗せることが必要です。そのためにはチケットを確認する人や案内をする人、乗り物を動かす人はどうするか、自分たちより小さい人に乗ってもらうにはどうすればいいのかなどを考えていきます。「乗り物のスピードが速すぎると怖いかもしれないね」「お化け屋敷は入ることができないかもしれない」など相手のことを考えてどうしたらいいかを考えていました。

当日はゆり組の子どもたちは忙しそうに働いていました。どの子も自分たちがやっているんだ！という誇らしさをもっていました。少しドキドキしているばら組ともも組の子どもたちも順番を待ち、楽しそうに乗り物に乗っていました。

その後、保育室に戻ったばら組、もも組の子どもたちは「自分たちがゆり組さんになったら、遊園地を作るんだ！」と1年後、2年後の抱負を語っていました。

ゆり組は自分たちがやったことを年下の友達が受けて止めていることがわかり、年下の子どもたちは憧れをもってお兄さんお姉さんの姿を見て、自分たちもやってみようと思える。その関係が繋がっていくことが大切だと思います。

この“ゆりQハイランド”の遊園地ごっこには“幼児期の終わりまでに育ててほしい姿（10の姿）”がいくつも見られます。自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現などが育っています。まもなく、2学期が終わります。

子どもたちは様々な経験を通して、たくさんのことを学んできました。来年もたくさんの楽しい経験を、学びにつなげていきたいと思えます。今学期も本園の教育活動について保護者や地域の皆様にご理解ご協力をいただいたことを感謝いたします。